

広報

TOBETSU

7

とうべつ

1996年7月1日発行

No.514

発行 北海道当別町 編集 企画部企画課



町の人口20,023人(男性9,967人・女性10,056人)世帯数7,107世帯(6月1日現在)前月より11人・31世帯増

参加者からひとこと

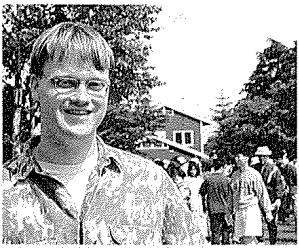


来てよかったです！
鹿野里菜ちゃん親子

「○×ゲーム」で、見事勝ち残りを果たした当別太の鹿野里菜ちゃん（7歳）と母親の恵子さん。

優勝の賞品は、スウェーデン交流センターのガラス工房で製作された5万円相当の花瓶で、二人は思わず幸運にニッカリ。

夏至祭には家族4人と親戚3人の7人で来たそうで、恵子さんは「会場には11時半頃に着きました。夏至祭にはおととしから毎年来ています。来年も必ず参加したいです。」と笑顔で答えてくれました。



驚きました！
ヒルズの町並みと夏至祭

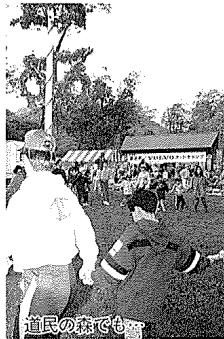
仕事の関係で3週間前から札幌市に滞在中のイエンス・エスティルグレーンさん27歳。

母国は「夏至祭」の本場のスウェーデンで、この日は仕事先の関係者等4人と一緒に訪れました。

ストックホルム市の在住で、「スウェーデンの街並みにそっくりなヒルズの景観と日本の町で夏至祭が行われているのに驚きました。」と感激の様子で話していました。



○



○



○



夏至祭

マイストリングを囲み
白夜の国の祭りに集う



○



暖やかな初夏の日差しの6月26日、獅子内のスウェーデンヒルズで第13回夏至祭が開かれ、大勢の家族連れで賑わいました。
同祭りは、町が如き都市を結んでいるレクサンド市（スウェーデン）で盛大に開かれていたるなり。

ハートは愛と信頼、円形のリースは村や町の团结を意味するもので、夏至柱は観衆の「オーレ！」の掛け声の中、ヒルズ町民等15人によって少しずつ立ち上げられました。

拍手や軽快な音楽が流れる中、立ち上がった夏至柱の回りではフォータダンスが始まり、観衆も混じってダンスの輪は大きく広がりました。

また、ス・交流センター前庭などでは、ガラス、織物などの手工芸品販売や演劇、クッキーやビールなどスウェーデン製品の販売や試食・ゲームなども行われ、北欧ムードを盛り上げていました。

このほか、太美駅前の「スウェーデンブラザ」で開かれた前夜祭にも夏至柱が立ち、「会場狭し」と集まつた親子等はフォークダンスに酔いしれながら白夜の国の祭りに親しんでいました。

一層本場の祭りが再現された今年は、夏至柱に取り付けるハートや円形などのリースを持った親子等30人が立ち上げ会場のスウェーデン公園催で、祭りの見所は夏至柱（マイストリング）と呼ばれるボールの立ち上げ。

陽の季節が到来を喜び五穀豊穣を願う北欧の伝統的祭りです。

町、当別・レクサンド都市交流協会、スウェーデン交流センターの共催で、祭りの見所は夏至柱（マイストリング）と呼ばれるボールの立ち上げ。

6月26日、獅子内のスウェーデンヒルズで開かれた前夜祭にも夏至柱が立ち、「会場狭し」と集まつた親子等はフォークダンスに酔いしれながら白夜の国の祭りに親しんでいました。

当別町は明治4年、仙台藩・岩出山伊達家10代の伊達邦直と家臣によって開拓が始められた町です。

その当別開拓の「祖」である邦直の郷里・宮城県岩出山町から、邦直の偉業を偲ぶ町民の一行72人（皆川清園長）が5月26日夕、臨時寝台列車Ⅱ岩出山町民号で当別を訪れました。

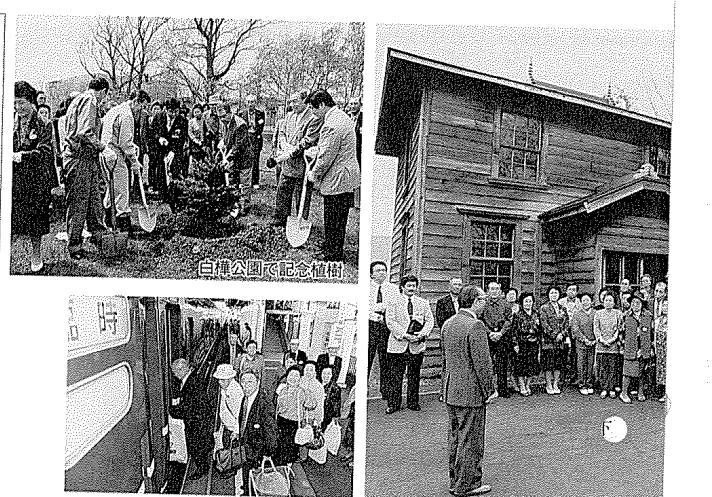
「有備館駅」が3月16日、同町を走るJR陸羽東線の岩出山～西岩出山間に開業したことを記念しての訪問で、訪れたのは佐藤仁一町長や町内から応募した壮年の方々など。

一行は翌27日、2台のバスでスウェーデンヒルズの町並みを見た後、互いに持ち寄った町木のシラカバとともに木を自慢公園に植樹したほか、明治13年建築の伊達邸別館・伊達記念館の視察や邦直を祀る当別神社を参拝し、原始・未開の「トウベツ」開拓に心血を注いだ先人達の偉業を偲びました。

佐藤町長は、「先人が学んだ有備館（駅）を発し、邦直の移住の軌跡をたどる『岩出山町民号』での訪問は、私達にとって非常に意義深いこと。」と話し、帰省後同町6月号の広報「いわでやま」では、「邦直公は家臣の将来と岩出山の地の将来を考え、両立する存在と繁栄を互いの地で育むため未来への船出を決断しました。

いま1世紀の時空を越え1つのレールに託し、直通列車がもたらした「当別・岩出山」の共存共栄は、まさしく邦直公が夢を駆せた変革から力強く歩み出す両町のバランスある繁栄である……」と記しています。

岩出山町民の訪問を機に、このページでは「トウベツ」開拓の歴史を振り返ってみました。

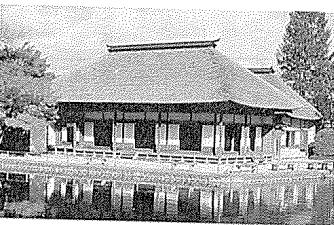


岩出山町

宮城県の北西部に位置し、丘陵間の谷間から平野地帯に出る「谷口」的地域に位置する。6月1日現在の人口（住民基本台帳）は15,282人（4,280戸）。行政面積は約141平方キロメートルで、その約半分が山林。旧石器時代から人々が永住して文化が栄え、約400年前の1591年には伊達政宗が居城を構え、その町並みは近世へ受け継がれてきた。治山・治水事業を進めて産業を振興し、独自の産業の中に文化を取り入れながら歴史を大切にした個性的な町づくりをしている。

有備館

有備館は寛文3年（1663年）、岩出山城の出火による二の丸の居館焼失により急造した伊達家の居館を、元禄4年に学問所「春学館」として創設したもの。翌5年に「有備館」と改称し、寺子屋で教育を終えた家臣の子弟等の中等教育施設として活用された。建物は寄棟・書院造りで、現存する郷校では日本最古の学問所。名称の由来は中国の「史記」から出ている「備えあれば憂いなし」の字句が引用されている。



伊達邦直

天保5年（1834年）9月12日、岩出山城で出生。明治24年1月12日、当別村で死去（58歳）



ともに偲ぶ トウベツへの移住と

時に新政府は、国家の大事業として早くから蝦夷地の開拓を目指していました。家臣の救済という切実な事情を背負っていた邦直は明治2年9月、旧臣一同を「有備館」に集め蝦夷地の開拓計画を発表、政府に蝦夷地開拓を志願したのです。

最初に許可が下りたのは空知郡ナエイ（現在の奈井江町）でしたが、同地は原始未開の蝦夷地の奥地、交通の不便な地であることを察知した邦直は2年10月、沿岸地の代替えを再願したのです。

しかし聞き入れられず、邦直は家臣6人と翌3年3月、船で松島湾の寒風沢（さぶざわ）港を出發。函館・岩内・小樽・石狩経由でナエイに入り、地形・土質の調査や境界標を立てたのです。

ナエイは奥地で、水路はあるものの交通の手段がなく、開拓には多額の資金を要するものでした。邦直は改めて沿岸地への変更を函館役所に願い出ましたが認められず、やむなく地質の悪い厚田郡シップ（現在の聚落）に所替を嘆願、許可されたのでした。

「岩出山町民号」の72人が来町 開拓の偉業

開拓前夜

蝦夷地移住を決意

仙台藩・岩出山伊達家10代の伊達邦直ら家臣が、蝦夷地の開拓を決意したのは明治2年9月のことでした。

仙台藩は明治維新の際、「戊辰の役」に敗れたため領地・城・敷地を没収され、俸禄も14,640石からわずか59石（130俵）に減禄されました。そのため邦直は、736戸の家臣を養うことができなくなつたのです。



（宮城県芸術協会会員小野寺栄～作、開拓者より・開拓の同志・木版画）

開基元年（明治4年）

《第1次移住》

明治3年8月、邦直は蝦夷地開拓がいかに困難であるかを説明した上で改めて移住者を募りました。応募者は181人(45戸)。邦直は資金調達のため、由緒ある田場内の建物や土地・石の類まで払い下げたほか、古くから伝わる家財・什器・骨董品を金で換えました。

明治4年3月2日の出発の前日、さくらんぼを植えました。
勇払上陸を目指しましたが、悪天候指し岩出山を後にし、寒風沢港から古くから伝わる家財・什器・骨董品を金で換えました。

八幡神社の境内では送別会が催され、旧臣は羽織・袴で集まり、「いつまた会えるのか」と涙を流しながら別れを惜みました。

3月2日、181人は新天地を目指し岩出山を後にし、寒風沢港から勇払上陸を目指しましたが、悪天候や濃霧に阻まれ室蘭港に上陸。道なき陸路をシップでたどり着いたのは、岩出山を勘定してから35日目の3月27日でした。

邦直はシップ開拓の実情を開拓使に説明し、「トウベツを代替え地に」と請願、この願いが明治4年5月29日に許可されたのです。

必要な資金難になつた邦直は、開拓使宛の建築工事を随意契約で受注。武士から職人に転じて仕事に励み、開拓資金1,000円を得て士気の回復につながつたのでした。

7月20日からは、わずか11日間で岩出山から当別までの5里7町(20km)の八道(幅約2mほど)を切り開きました。

時に明治4年8月1日のことでした。

7月20日からは、わずか11日間で岩出山から当別までの5里7町(20km)の八道(幅約2mほど)を切り開きました。

《トウベツの調査》

4月7日でした。

開拓以来のあゆみ

明治4年

伊達邦直以下45戸・18人が厚田村シップに移住。(のちに43戸・161人に)。瘦せ地のためトウベツ開拓を申請、許可を得る。

明治14年

北海道の開拓模範村に選ばれる。

明治26年

国有未開地への入植を促す「植民区画地」設定。

明治27年

六軒町で製線工場稼動(昭和2年まで)

明治35年

戸長役場から2級町村制の「村」に昇格。(1,675戸・8,013人)。出・倒壊や田畠の冠水など、甚大な被害を受けた。

明治42年

大正2年 当別土功組合が創設され盛んに造田が進む。

昭和2年

戸長役場から「江当軌道」が開通。

昭和38年

当別川上流に「青山ダム」完成。

昭和44年

当別高校が江別高校の定期制分校として開校。39年には「道立当別高等学校」に。

昭和53年

札幌と当別を結ぶ「札沼線」が開通。

昭和62年

当別村から「当別町」へ昇格。

昭和64年

当別高校が江別高校の定期制分校として開校。39年には「道立当別高等学校」に。

昭和65年

札幌男を偲ぶ文学碑「石狩川」が石狩川河畔のビトエに建立。



明治4年3月2日の出発の前日、さくらんぼを植えました。

勇払上陸を目指しましたが、悪天候や濃霧に阻まれ室蘭港に上陸。道なき陸路をシップでたどり着いたのは、岩出山を勘定してから35日目の3月27日でした。

邦直はシップ開拓の実情を開拓使に説明し、「トウベツを代替え地に」と請願、この願いが明治4年5月29日に許可されたのです。

必要な資金難になつた邦直は、開拓使宛の建築工事を随意契約で受注。武士から職人に転じて仕事に励み、開拓資金1,000円を得て士気の回復につながつたのでした。

の回復につながつたのでした。

7月20日からは、わずか11日間で岩出山から当別までの5里7町(20km)の八道(幅約2mほど)を切り開きました。

時に明治4年8月1日のことでした。

7月20日からは、わずか11日間で岩出山から当別までの5里7町(20km)の八道(幅約2mほど)を切り開きました。

第2次移住

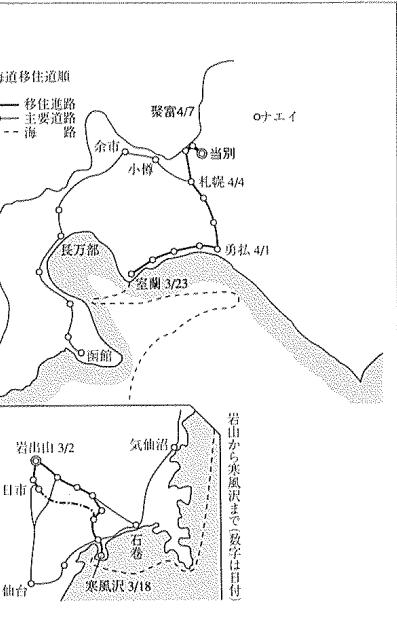
再移住は明治5年の春と決まり、邦直は新たに旧臣の移住を計画。開拓に必要な資金貸与の準備が整つたものの、北海道開拓の成否を危ぶむ

第2次移住

再移住は明治5年の春と決まり、邦直は新たに旧臣の移住を計画。開拓に必要な資金貸与の準備が整つたものの、北海道開拓の成否を危ぶむ

（前編）

第一回は、岩出山を2月17日出発し寒風沢港から船で出港したのです。が、航行進路を誤り暗礁に触れて船底を破損。丸死に一生を得たものの、食料や携行品・什器類は海水に浸るなど大きな被害を受けながらも小舟でさくらんぼを運んでいたのです。舟底を修理する原野・巨木の密生する原始林の間を区画し、掘立小屋を建てて我が家としました。毎日毎日が開拓でしたが、困ったのは交通の不便さでした。前年の冬は人道を開いたとは言え、途中急な坂道や湿地・沢地があり、馬代でさえ通行が不便でした。水路（当別川）があつても大木が行く手を阻み小舟でさえ通ることができず、食料などの運搬は言語に絶するものがありました。そして、それが秋には大きな実を結んだのです。



（前編）

岩出山を2月17日出発し寒風沢港から船で出港したのです。が、航行進路を誤り暗礁に触れて船底を破損。丸死に一生を得たものの、食料や携行品・什器類は海水に浸るなど大きな被害を受けながらも小舟でさくらんぼを運んでいたのです。舟底を修理する原野・巨木の密生する原始林の間を区画し、掘立小屋を建てて我が家としました。毎日毎日が開拓でしたが、困ったのは交通の不便さでした。前年の冬は人道を開いたとは言え、途中急な坂道や湿地・沢地があり、馬代でさえ通行が不便でした。水路（当別川）があつても大木が行く手を阻み小舟でさえ通ることができず、食料などの運搬は言語に絶するものがありました。そして、それが秋には大きな実を結んだのです。

しかし、こうした苦労の中にも心の慰めや明るさがありました。それは、撒いた種が良く発芽したことです。そして、それが秋には大きな実を結んだのです。

(資料)当別・岩出山町史など)

昭和45年（開基100年）現役場所含めこの年完成。

昭和51年 東日本大学（現北海道医療大学）の薬学部専門部当別校が金沢に開学。53年には歯学部開学・歯学部付属病院開院。平成5年には看護福祉学部も開学。

昭和55年 「当別町総合計画」策定。

昭和57年 「当別伊達記念館」落成。

昭和63年 「札幌大橋」がピットエの石狩川に完成。

平成3年 J.R札沼線の愛称が「学園都市線」に。

平成4年 「当別町第3次総合計画」を策定。4月から実施。道が実施の「当別ダム」の建設着手決定。

平成5年 当別駅北側に「白樺公園」が完成。町當小屋スキーパー場にアリーフトと夜間照明が、6年に体憩施設が完成。当別の南北をまたぐ「自由通路」と新駅舎完成。

平成8年 全小中学校で学校給食始まる。4月26日、人口2万人を突破。

新総合計画策定に伴う 「まちづくりプラン」をお寄せください

町は「当別町第3次総合計画」を見直し、新たな総合計画を策定するため「当別まちづくりプラン」を募集します。

「第3次総合計画」は平成4年度にスタートしましたが、新総合計画は予測を大幅に上回る人口の増加や、急速に進む国際化・高度情報化・高齢化などに対応した「まちづくりの指針」として、21世紀に向けた新たな計画を策定するものです。

今後は「町政懇話会」などの機会を通じ皆さん意向を計画に反映していきたいと考えておりますが、「まちづくりプラン」の募集はその第1弾で、『あなたが期待する当別の将来像』をお寄せいただくものです。

応募要領

《応募資格》

町民、および町内通勤・通学者
(ただし小学5年生以上)

《テーマ》

当別まちづくりプラン
(当別町の将来像)

当別町は、札幌市を中心とした通勤エリアとして今後も人口の増加が予想されます。

「個性的・人にやさしい・自然と調和」など様々なキーワードが考えられるますが、当別町が「どんなまちであってほしいか・どんなまちづくりを進めたらよいのか」様々な考え方や意見・夢を伝えてください。テーマ・題名は、趣旨に沿っているものであれば自由です。

《応募方法》

400字詰原稿用紙、またはA4版用紙に800字以上

参考イラストや図面添付は自由で、作品は返却しません。

《応募締切》

9月30日(月)当日消印有効

《応募・問い合わせ先》

住所、氏名(団体名、学生は学校名・学年) 電話番号を明記し、郵送または直接提出ください。

(〒061-002 当別町白樺町59番地9
企画部総合計画課宛・☎3-2330
内線252)

《その他》

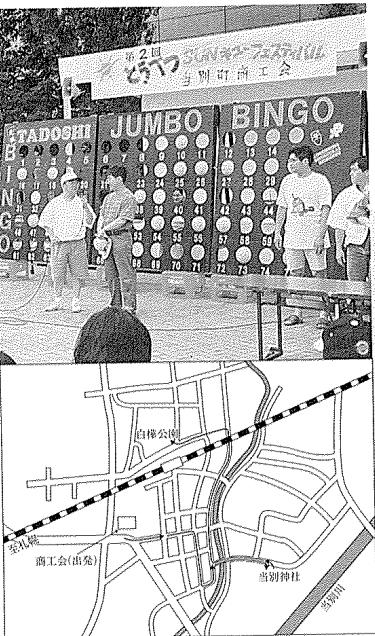
優秀作を表彰します。また、応募者にはオリジナルアレホンカードをプレゼントします。(多数の場合には抽選の場合があります)

参加ください '96とうべつ SUNキュー フェスティバル

とき 7月14日(日)10時~
ところ 白樺公園
主催 当別町商工会

- イベント・出展概要**
- 10時~
・甲冑出陣 武者行列
 - ・猿まわしの大道芸
 - ・フリーマーケット、花市
 - ・車両衝突体験コーナー
 - 11時30分~
・開会式
 - 12時30分~
・野外演奏会(吹奏楽)
 - 13時30分~
・よさこいソーラン踊り
 - 14時30分~
・ジャンボbingoゲーム

《武者行列コース》



岩出山から借用した本物
そつくりの鎧・兜をまとった
40人など、100人以上が市
街を行進します。

石狩町との境界 6月14日に確定

約100年来未確定になつていて
た当別町と石狩町の境界線が6月
14日、法律手続きが完了し確定し
ました。
確定した境界線は高岡地区の延
長約13キロの区間。
道府が明治29年に実施した「調
査連絡図」が調製当時から食い違
いのままになつていたもので、兩
町長が昨年8月29日に結んだ「石
狩町と当別町との境界の確認に關
する協定書」に基づき法律上の手
続きが進められていたものです。
当別町の現在の行政面積は42



0.12平方キロメートルで、両町の面積は今
後、国土地理院の測量によって確
定・公表されます。

地震に備え 当別町防災訓練を実施します

「石狩沖で震度6の地震が発生、
石狩川に架かっている橋が崩壊す
るなど当別町が孤立している。」を
想定した防災訓練を実施します。

本格的な救助活動に先駆けた
「災害発生直後の灾害応急対策」に
ついて、当別町と航空自衛隊第45
警戒群が協力して行うものです。
訓練当日はヘリコプターや救急

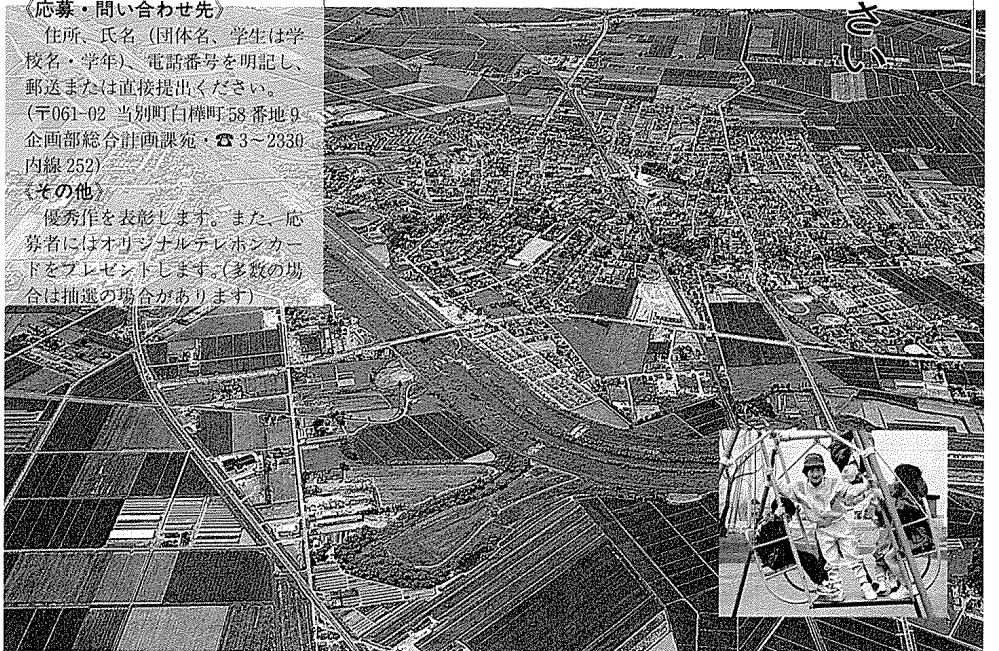
車、消防自動車などによる騒音の
発生が予想されますが、ご理解と
ご協力をお願いいたします。

▼開催日 7月22日(月)
▼訓練会場 阿蘇公園(元町)、お
よび阿蘇公園周辺

▼主催 当別町・航空自衛隊第45
警戒群

▼広報 訓練のスケジュールは、
7月初旬に配布のパンフレット
でお知らせします。

▼詳細 役場総務部総務課総務係
(☎3-2330内線222)





青山中央小学校の6人全員が、二番川の山林で採ったウドとフキ約40kgを「養護老人ホーム当別長寿園」にプレゼント。12年続く交流で、夕食にはウドの酢味噌和えやフキの味噌汁などがお年寄りの頬をほころばせました。（5月31日）



高橋高藏さん（57歳・茂平沢）のハウスで始まったイチゴの初出荷。ハウスなど、約20aの畑には大粒の「宝交早生」や「北えくぼ」が熟します。16戸が加入の「当別いちご生産組合」では、20tの出荷を見込みます。（6月10日）



生徒が育てたマリーゴールドなど約800株を、養護老人ホーム・当別長寿園の花壇に移植する当別高校の農業クラブ員。16年ほど前から続く恒例の奉仕活動で、町内のゴミ拾いなどに109人の金クラブ員が参加しました。（6月15日）



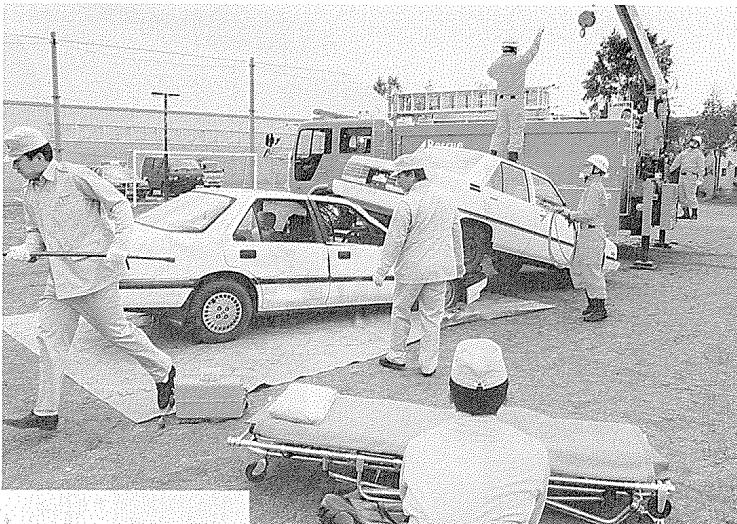
熱狂 当別YOSAKOI おどり隊

初出場の「よさこいソーラン祭り」で、熱狂的に踊りまくる「当別YOSAKOI おどり隊」。先導車の大型スピーカーからは、リズミカルなオリジナル曲の「あっぱれ音頭」が大音量で流れ迫力も満点。市内5カ所で延べ9回繰り広げられた「当別隊」のステージでは、踊り手はもちろん、集まった観衆はエネルギー漲る踊りに酔い知れました。（6月9日・札幌駅前通り）



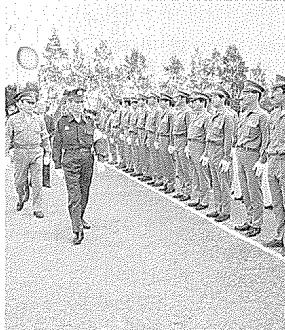
ヤングパワー全開！ 医療大で学園祭

道医療大学で開かれた「第18回九十九祭」。メインイベントは、公開セミナー（初日）や観客約200名が詰めかけた、お笑いタレント「爆笑問題」ほかによるライブ（2日目）。そのほか校外では露店の出店や軽音楽部のステージなどが行われ、祭りムードを醸し出していました。（6月15・16日）



新鋭の「救助工作車」が威力を発揮

はしご車などの消防車両11台のほか、消防職・団員等約180人が参加した消防訓練大会。交通事故を想定した救助訓練（写真上）では新鋭の救助工作車も出動。車載のクレーンや油圧式の切断機で押しつぶされた車両からダミーの人形が迅速に救出されました。このほか伊達町長（石狩北部地区消防事務組合管理者）による職・団員の観閲（写真下）や一斉放水訓練なども機敏に行われました。（6月17日・当別小学校グラウンド）



昔ながらの田植えを体験学習

厳岱小学校の全校児童24人の田植えの体験学習。裸足になって学校横の高橋聰さんの水田に入った子供たちは、「シャッコーイ！」と歓声を上げながらも、「きらら」の苗を丁寧に植え込みました。刈り取りから脱穀までを行い、秋にはおにぎりにして試食します。（6月5日）



1等賞は僕のもの ヨーイ・スタート！

当別小学校の「大運動会」。活躍と成長ぶりを見に来た父母等の大きな声援を受け、子供たちはグラウンドを元気一杯に駆けました。種目は学年別の徒競走をはじめとした個人競技や大玉ころがし・騎馬戦などの団体競技。最終競技は、高学年による紅白リレーで締めくくられました。（6月2日）

みんなひろば

湯浅さん・町納稅貯蓄組合連合会
国税局長などから感謝状



長年、納稅貯蓄組合活動に貢献

している湯浅成夫さん（対雁通、71歳）が5月24日、札幌市で行われた顕賞式で札幌国税局長から感謝状が贈られました。

湯浅さんは対雁共和地区の納稅組合長として昭和47年から現在まで24年間、また「町納稅貯蓄連合会」として現在まで10年間務めたほか、昨年からは札幌北

地区納稅貯蓄組合連合会の副会長を務めるなど、納稅思想の普及や自主納稅の推進に貢献されているものです。

また同顕賞式では、昨年の納稅実績が99.5%を達成した町納稅貯蓄組合連合会（141組合・3,231人）に知事感謝状が贈られました。



進之助くん(右)と僚太くん

前年度の3歳児検診受診者65人が対象で、この日は16人がお母さんと一緒に訪れました。

審査員は道医療大学の歯科医士2名で、虫歯の有無のほか噛み合

わせや歯並びもなど審査されました。

同伴した一人のお母さんは、「ヨコレートやガムを控えさせ

ています。食後や寝る前の歯みがきをきちんと指導しています」と、

わが子の受賞を喜んでいました。

近藤 医院(☎3-2021園生)
太美中央病院(☎6-2332太美町)
勤医協(☎3-3010錦町)
堀江病院(☎2-3111樺戸町)
どうぶつ内科クリニック(☎2-1313園生)



おめでとうございます

戸籍のど

5月16日から6月14日までの届出分

申し上げます

戸籍のど

氏名 年齢 世帯主 住所

近くに住む先輩団員に誇われた
「近くに住む先輩団員に誇われ
たんです。」と言った田淵くんは今年
5月、「当別消防団第1分団」に入
團した5人の若者の内の最年少
者。

「わざか10日間程度の練習しか
できなかつたんです。」と言うもの

正ぐんフローリー

No. 215



まちの
はつらつさん

39

田淵 隆浩
(材木沢 1326番地・22歳)

の、当別小学校のグランドで6月
17日行われた当別消防訓練大会
では、防火衣に身を包み初めて「ボ
ンブ自動車操法」に出現、機敏な
動きを披露しました。

田淵くんの家庭は7・5ヘク
タールの水稲と60アールの花卉を

栽培する專業農家で、父・静一さ
んの後を繼ぐ農業後継者。

農業高校を卒業、その後2年間
は専門学校でコンピューターの知
識も習得しています。

冬季間の農閑期は例年岩見沢方
面で、高速道路の除雪の臨時職員
としても働く田淵くん。「今年は大
特(大型特殊自動車運転免許)を取
つて除雪車の運転を担当したい
と思います。」と張り切り
ます。

友達には農業後継者も多いそ
で、普段の楽しみは土・日にかか
わらず集まる仲間とのボウリン
でのひととき(?)とか……。

まだ22歳で、「結婚……」です
か?。親も何にも言いませんし全
然考えたこと有りませんよ。」とは
言い切るものの、友人との会話で
話かず……』と素直に笑います。



シノリーズ
わちの名木紹介



昭和3年に挙行された昭和天皇の御大典を記念して同年5月5日、北海道では数少ない「大王松」が、当別神社参道に植樹されました。それから68年の歳月が流れましたが、境内の多くの木々とともに神社の深遠を守り、願う人・祝う人・訪れる人・去る人を暖かく迎え、また送ってきたこの大樹は、移りゆく人とまちの姿を見守り続けている名木の1本なのです。(紹介へ町文化財調査審議会)

創設20周年を迎え、町内で記念式典を開いた当別ロータリークラブ(泉亭俊徳会長・41人)が6月15日、記念事業として町に寄贈した「ロータリー・福祉号」。100万円の軽自動車で、町ではお年寄りの在宅サービスなどに活用することにしています。

また、昭和38年4月から昭和41年4月までは道議会議員を務め、町政や道政発展のために貢献されました。

昭和22年5月から4期16年間町議会議員を務めたほか、町農業委員会委員や当別森林組合理事などを歴任されました。

昭和39年町政功労者賞受賞昭和49年耕種優章平成4年熱六等單光旭日章の在宅サービスなどに活用することにしています。

昭和38年4月から昭和41年4月までは道議会議員を務め、町政や道政発展のために貢献されました。

昭和39年町政功労者逝去昭和49年耕種優章平成4年熱六等單光旭日章の在宅サービスなどに活用することにしています。

昭和38年4月から昭和41年4月までは道議会議員を務め、町政や道政発展のために貢献されました。

昭和39年町政功労者逝去昭和49年耕種優章平成4年熱六等單光旭日章の在宅サービスなどに活用することにしています。

いまい 現在を活さる

「碁会所」の開設は、西村さんが長年抱いていた夢。そろそろ定年(?)も近づいた平成6年春、その夢が一気に膨らんだと話します。しかし、この夢を実現させるためには、スペースの関係などから12年間住み慣れた持ち家を引き払わなければならず、住宅兼用の碁会所の新築は、「一生に一度のわがまま」と、嫌がる妻を説得したんです」と笑います。

待ちに待つた碁会所兼用(?)の住宅は、来客用10台分の駐車スペースを備えてその年の10月に完成、1ヶ月後の11月には待望の「開碁サロンふとみ」の看板が玄関先の上方に掲げられたのでした。

西村さんと開碁の出会いは35年前の高校時代で、同級生から手ほどきを受けたのがきっかけでした。その後碁関係の本で独学。5級程度の棋力になった1年後からは、碁の好きな上司や仕事関係の有段者などとも対局し、昭和42年には待望の初段位免状を取得しています。

「碁会所」の開設は、西村さんが長年抱いていた夢。そろそろ定年(?)も近づいた平成6年春、その夢が一気に膨らんだと話します。しかし、この夢を実現させるためには、スペースの関係などから12年間住み慣れた持ち家を引き払わなければならず、住宅兼用の碁会所の新築は、「一生に一度のわがまま」と、嫌がる妻を説得したんです」と笑います。

待ちに待つた碁会所兼用(?)の住宅は、来客用10台分の駐車スペースを備えてその年の10月に完成、1ヶ月後の11月には待望の「開碁サロンふとみ」の看板が玄関先の上方に掲げられたのでした。

西村さんと開碁の出会いは35年前の高校時代で、同級生から手ほどきを受けたのがきっかけでした。その後碁関係の本で独学。5級程度の棋力になった1年後からは、碁の好きな上司や仕事関係の有段者などとも対局し、昭和42年には待望の初段位免状を取得しています。

「第一の夢はかなつた」と言う西村さんのもう一つの夢は、町内からプロ棋士を誕生させることがや誰もが楽しめる定例会の開催など。地域では小・中学生の指導も統けるなど、第2の夢実現に夢膨らませます。

以後も益々熱が入り、昭和48年に三段位、また昭和51年には五段位と急速に棋力を付けたもの、当時は家庭も顧みず熱中しました」と、今では反省もしているそうです。

碁の面白さは「棋力の別なく、相手の作戦を読み取り、自分の考え方通りになりなりにつながりしながら、その時に新しいことにぶつかる奥の深さにあります。勝ったと喜び、負けたと悔しがりながら、一度の対局で旧知の友にもなり得るんです」と、西村さん。

会社勤めのため、碁会所は土・日のみの開設ですが、常連の4~5人や当別町の15人など、過去1年間には約40人が「開碁サロンふとみ」を訪れました。

「道民の森」へ行つてきました。その日は雲二つない(二つくらい)はあつたかも? 晴天がじんじんするような蒸し暑さでした。撮影所までは山道を登らなければならず、片道およそ20分程の

にしむら 西村 勝利さん(当別太1509番地・53歳・会社員)

運動不足なのか不慣れな山登りのせいか照りつける太陽で私は登山途中から汗が滲んで流れ出し、目的地に着く前に息も絶え絶えになりました。

運動不足なのか不慣れな山登りのせいか照りつける太陽で私は登山途中から汗が滲んで流れ出し、目的地に着く前に息も絶え絶えになりました。

おまけに、足腰が筋肉痛で、まるで鉛の靴を履いているようにながめがきません。でも、登山は中学生以来の付けていたので、体は昔のまでは付いて来ないものの、当時に戻ったよくなな気分になり、下山のときは何とも言えないがすがしさを味わうことがあります。皆さんも健康増進や体力づくりに、あるいは少年時代「この回顧に「道民の森」を利用してみてはいかがでしょうか。

■「健康と相談」ココナートを見やすくするため、今月から「国保と年金」「こんなにちは保健婦」のココナート記事の割付けを切り替えてみました。以前と比べると、幾分つぱりした感じになつたのでは?

今後もほんの小さなことから大きなことをまで、隅から隅まで目を通していくだけ。指していきたいと思つて

編集後記



シンボルマーク
キャラクターの「こめちゃん」